

平成29年度 第4回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	平成29年度第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日 時	平成30年3月20日(火) 午後1時30分から3時30分まで
3	会 場	本庁舎 3階 共用会議室306
4	出席者	栗田会長、細川副会長、磯野副会長、丸山委員、大神委員、吉田委員、佐治委員、小澤委員、山田(百)委員、西澤委員、望月委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	平成30年3月23日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 審議事項
 - ①個別協働事業の評価の実施及び協働事業事例集について
 - ②「協働のまちづくり」に関するアンケート調査集計結果及び分析
 - ③協働計画に基づく進捗状況及び評価
 - ④第2期安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び行動計画について
- (4) その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会(進行:細川副会長)
- (2) あいさつ(栗田会長)
- (3) 審議事項(進行:栗田会長)
 - ①個別協働事業の評価の実施及び協働事業事例集について

【会長】事務局より報告をお願いします。

【事務局】前回の委員会で報告した36の個別協働事業について、各担当課及び協働の相手方それぞれで評価を実施した結果を報告する。

【委員】事業主体がそれぞれ評価したものについて、この委員会においてはどうかの評価を行えばよいのか。

【会長】PDCAの評価は事業主体が行う評価であって、この委員会での評価がどう活かされていくのか。

【事務局】評価シートでは、どう事業を進めてきたかを記載している。委員会の役割として各事業の評価について、協働としてどこまでできているのか、改善点があるのかどうかをご確認いただきたい。いただいたご意見は担当課へつなげ、次年度以降の協働事業に反映していく。事業内容等わからない部分は、担当課へ確認をさせていただく。本委員会の立ち上げ当時にも、どうかの評価をするか議論した。当初、全ての事業主体を委員会にお呼びすることも検討したが、委員会で時間も取れないということで書類上での評価となった。

【委員】この評価シートは、自身も2年前ほど前より協働の実施主体として記載している。継続事業は協働がどう変化してきたかわかるような記載ができると良い。

【委員】各協働事業について、各実施主体における事業費の負担がどの程度かわかることが必要ではないか。

【事務局】協働事業の理解がより進むよう、協働事業事例集の中で記載できるよう検討したい。

【委員】評価シートの中には、改善事項の記載欄に記入の無いものがある。PDCAを回していくためにも記載が必要ではないか。

【事務局】ご指摘いただいたことを、担当課へお伝えする。

【副会長】中身に立ち入ってまで評価は難しい。この委員会では、提出されたシートを素材に、より広い意見としてまとめていけば良いと考えている。ただし、評価シートの項目は、1年間に限られた項目となっている。協働の中身を濃いものとするため、今後の方向性など中長期的な協働の展望について項目として設けることを提案したい。

【事務局】事前に協働事業を報告していただくときに、継続性や中長期的ビジョンを報告していただくよう工夫していく。

【委員】協働事業にも税金が使われている。後程審議する市民アンケートの中でも税金がどう使われているのかについて意見があった。予算などを市民へ情報提供していくことは大事である。

【会長】評価シートは単年度の評価項目になっている。継続事業については、昨年の改善点について具体的にどう改善し取り組んできたのか、時系列でわかるようになれば良いのではないか。

【委員】毎年全ての事業について評価することは難しい。委員会としてきちんと評価するのであれば、年数はどの程度が良いかわからないが、例えば3年とか5年とか継続された事業について、重点的に委員会で評価を行っていった方が良いのではないか。

②「協働のまちづくり」に関するアンケート調査集計結果及び分析

【会長】事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】アンケートの結果として、事務局の主観ではあるが、全体として「協働」に対する理解がまだまだ進んでいないという印象を受けた。また、大きな社会情勢の変化の中で、できることがあればまちづくりに参画したいがどう参画して良いかわからないという方が埋もれているのではないかという感想である。協働の基盤は一人ひとりがどう主体的にまちづくりに関わっていくかであるため、人財の発掘・活用は今後のポイントになるように感じた。

【委員】回収率の低さに驚いたが、他のアンケートでもこの程度なのか。「知らない」「関心がない」と回答される方が特に若い世代に多いと感じた。若い方ほどSNSなどを使っているので、そういうものを活用していったら良いと感じた。

【副会長】市の他のアンケートについても調べたが、大体40～50%程度。回収率の低さは、そのまま「協働」に対して関心が無いということの大前提にあると感じた。かなりの量のアンケートであったので、わからなくて回答できない時はその旨一言書いて出してもらおうようなことも考えを知るために必要かと思った。50%以上の回収率であった市総合計画のアンケートでも協働推進の必要性については多くの方が必要だと感じており重要性は増している。また今回のアンケートの自由意見は非常に参考になった。

【会長】50%以上の回収率というのはかなり高いと思うが、大体どの程度か。

- 【事務局】** 自治基本条例のアンケートでは、もっと低かった。若い方が非常に低かった。若い方をどう巻き込んでご意見をいただくかが今後の課題と考えている。
- 【委員】** 昨年、秘書広報課で広報広聴制度に関するアンケート調査を行っていた。回収率は36.3%であり、ほぼ同じ時期に実施したアンケートでこの程度であれば、今回の回収率もまあまあかと。秘書広報課のアンケート結果とリンクし、いかに市民に情報発信していくか考えてほしい。
- 【会長】** 確認だが、世代別では28.4%を下回っているところもあるが、統計学上では問題ないのか。
- 【事務局】** トータルの回収率であり、統計学上、市全体の意見を推定するものとして問題ないと考える。
- 【会長】** 回収率の比較的高い高齢者の意見は反映しているが、比較的低い若い方の意見は反映できていないとはならないか。
- 【事務局】** あくまでも統計学上必要なのは、回収率ではなく回収数である。国の実施する調査でも同じ信頼度95%で調査しており、この範囲であれば概ね市全体の意見と推定できると考えている。
- 【副会長】** アンケートの回収率は予測していたこと。ただし、アンケートを実施したことで、不明だった点が明らかになってきた。市民が一番大事だと思っているのは情報提供であったり、活動の紹介、調整のコーディネーターの存在だったりする。市民活動サポートセンターに情報収集が必要なこと、教育機関や福祉関係の情報が提供できていないことが見えてきた。市民活動サポートセンターがやっている情報と、コーディネーター養成スキルアップを重点的にやっていかないと、中々応えきれないと感想を持った。
- 【委員】** 各年代で何通送付し、何通戻ってきたのか分析が必要と考える。
- 【事務局】** それぞれの間で年代別に結果が出るので、その分析により若い方への施策も検討できると考えている。
- 【委員】** 問38だが、地域ごとの結果を分析してみてもどうか。
- 【事務局】** 可能である。色々分析してみる必要がある。
- 【委員】** 地域リーダーやコーディネーター養成も、学んだことを地域に持って帰れない。協働は、自由記述を読んで非常に考えさせられた。NPOや市民活動団体が何かをすることも大事だが、地区の役員が協働の根本的な基礎だと感じた。学んだことを区に持って帰る、アンケート結果も区へ伝え、小さなところから基盤を作っていくことが大切だと非常に感じ、勉強になった。
- 【委員】** 養成するだけでなく、その人に合った形で継続して実践できるように支援していくことが大切だと改めて感じた。また、防災、防犯は住民が身近に感じやすいため、切り口として支え合い助け合い活動を強化していきたいところ。また、部制度も進んでいるので、地区社協もそこにのっかって協働していく原点だと感じた。一方、教育機関と企業は協働や福祉のまちづくりの中で、すぐに成果がでないこともあり、手を入れにくいところである。意識的に効果的なやり方を考えていかななくてはいけない。
- 【委員】** 協働の理解について、施策は進んでいるが、理解が進んでいないことについて、どう捉えれば良いのか。進め方を根本的に変えていった方が良いのか、協働の意味が深いため、活動が増えて、活動した時に理解が深まるのか、それによってこれからの取り組みが変わる。
- 【事務局】** これも感覚的だが、実践をされている方は多い。しかし、これが協働かどうかはわかっていない。文字が先に出てしまい、協働自体はよくわからないが、振り返っ

てみるとやってきたことは協働だったということはある。実際に皆さんがやっていたことを確認していただければ、それが協働だとわかっていただける部分が見えてくるのではないかと考えていた。それをどう施策として行っていくかということを考えていただければと思う。

【会長】「協働」自体がわかりにくい。「防犯」や「高齢者問題」と言えばわかりやすいが、「協働」はあくまでも防犯や福祉等を解決するための手段であるはずなのに、それ自体を目的としてしまう時点で何でも入ってしまうのでわかりにくくなってしまう。

【副会長】「協働」は特別なことでなくて、普通にあること。「協働」と考えると何かしなければならぬと考えてしまう。「協働」を発信するだけでは見ていただけないなど中々難しい。委員の皆さんもそれぞれ活動されているので、ちょっと周りにお話いただくだけで、また広まっていくのではないかと感じた。

【委員】自由記述では色々と意見が書かれている。声なき声も、内容は市役所内で共有してほしい。

【副会長】自由意見を多くの方に見てほしい。同じ年代の方がどう考えているか、身近で参考になると思う。

③協働計画に基づく進捗状況について

【会長】事務局より説明をお願いしたい。

※平成30年3月5日現在での計画の進捗状況及び評価について説明。

【委員】人材バンクについて、ネットワークという物理的なものができていないという評価なのか、人材バンクへの登録がゼロという評価なのかどちらか。

【事務局】両方である。何も取り組めていないということ。

【委員】登録者がゼロということか。人材バンクは他で仕組みがあるのか。

【事務局】生涯学習課では、「生涯学習リーダーバンク」を行っている。ここに、地域リーダー等を登録していくことを計画では検討していた。

【委員】生涯学習課のリーダーバンクに乗っかるということか。

【事務局】現状ある制度に盛り込んでいきたいと考えていた。昨年度の委員会の中でもご意見をいただいたが、座学中心の講座を修了するだけで登録というのは非常に難しいということで、以降、フォローアップ研修等で実践をしていただきながら最終的に登録できるようにもっていききたいと進めている。しかし、どのような形で実践研修を行い、登録できるようになるのか模索している。

【会長】登録情報はどのような情報が掲載されているのか。

【事務局】分野別に氏名、得意なこと等の情報がホームページ上で掲載されている。

【副会長】リーダーバンクは合併当初からあった。しかし、現在登録者の専門性が高く、登録のハードルが高い。そのため、座学の研修を受けただけでは中々登録できないと思う。善意で地域づくりに貢献しようと思う一般市民が参加しやすいやり方になれば良いと思うので、教育委員会と調整できればお願いしたい。

【委員】登録に資格審査はされているのか。

【事務局】わからない。

【委員】ある程度母数を大きくしていかないといけない。

【委員】地域リーダーも、登録して地域から呼ばれても、その地域を知らなければ意味は無い。その地域の方たちと一緒に考えながら勉強していく形だと思う。リーダーとしていくのであれば、職員が自分の地域に参画すれば良いと思う。教育委員会ではなく、地域づくり課として人材バンクとして社協と連携し、地元で区長さんたちと共に、

一緒に考えていくことが大切。

【事務局】生涯学習課の制度に乗っかる手もあるが、独自の地域課題解決の仕組みを市民生活部で作ることも案である。講座を受けていただいた後にしっかりと実践できるように、そのような案も視野に入れていく。

【委員】ネット社会とは言え、今の若者たちも見ないのではないか。

【委員】秘書広報課が行ったアンケートでは、市民の6～7割が紙媒体から情報収集しているとのことだった。若い方はネットだとすると、そのバランスが現在は非常に悪いが、10年先はかなり逆転してくると思われる。丁度過渡期なため難しく、市も悩ましいところではないか。ただし、ネットは消えてしまうが紙である限りは保管できる。

【副会長】情報はネットと紙媒体両方無いといけない。今度くるりん広場交流会を行うが、やはり顔と顔を合わせて声を聞いたりすることはとても良いこと。一つ質問だが、区の専門部会について教えてほしい。

【事務局】現在の市区長会の合言葉が「地域の課題は地域で解決していく」である。区で抱える課題は区で多くの皆さんとともに解決していくが、できないこともあるため、地域ごとの地域区長会で課題を出し合い解決の検討をする。しかし時間も限られるため、解決できない課題は市区長会で検討することになる。市区長会でも理事会があるが、ここでも時間が限られるため、別に時間をとって共通の課題解決の検討の場を設けようと平成27年度に設置されたのが専門部会である。市区長会の理事15人に加え、区長さんが自由に参加できる形であり、3つの部会に5つの班（テーマ）に分かれている。それぞれ現状の課題をぶつけ合い、どう解決していくかを毎月のように集まって検討している。しかし、市の区長会でも解決できない課題を、区長だけでなく、関係者が集まってみんなで解決しようとまちづくり推進会議が設置された。何段階かの課題解決の仕組みづくりができています。今年50人ほどの区長さんが参加した。区長OBも数名入っている。また、この専門部会で、部制度やコミュニティ・マニュアルも検討されてきた。

【委員】情報共有について、協働の事業は部をまたいでのことになるが、庁内で共有の場はあるのか。また、情報共有し、情報発信していくことが大切であるが、職員の研修を行い、こういう課題があつてこういうことに取り組んでいる、ということを、継続してしっかりと伝える仕組みを作っていくことが大切だと考える。

【事務局】協働についての研修は行うこととなっている。ここ数年は新人研修や中堅職員を対象にやっている。来年度以降、ご意見を参考に行う。

【委員】市民との接点となる部分であり、共通の情報発信でないと誤差が生まれるため、そこをどうしていくかを考えていただきたい。

【会長】先ほどの人材バンクの件であるが、市民生活部の中で今後議論されるのか。

【事務局】一度事務局で検討させていただき、次回の会議でご提案させていただきたい。

【会長】提案の際にはどのような情報が載るのかわかればありがたい。

【委員】区長は地域人材について知っているが、その方が人材バンクに登録するかどうかはわからない。情報を流すことはできる。

④第2期安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び行動計画について

【会長】事務局より説明をお願いしたい。

※第2期計画策定に向けた方針及びスケジュールについて説明。

【副会長】 今後の手順だが、パブリックコメントとフォーラムの順番はどうか。

【事務局】 フォーラムはパブリックコメントと重なる時期の開催を予定している。

(4) その他

【会長】 本年度最後の会議となる。次年度はいよいよ計画策定の時期となる。今後も皆さまのご協力をお願いしたい。

【事務局】 一年間の慎重審議に感謝する。本年度施行された自治基本条例に「協働の原則」が盛り込まれている。「協働」はあくまでも手段であるが、「協働」しないと中々課題解決できない。第2次総合計画においても、経営方針として全ての施策の基本となるのが、「協働」である。今後、第1次の計画を精査し、アンケートの分析も含め第2次の計画を策定していただきたい。第1次計画は毎月のように会議し、ゼロから計画を策定したが、第2次は現計画をベースに新たな5年に向けて策定いただきたい。1年間ありがとうございました。

【会長】 以上をもって本日の議事を終了とする。

(5) 閉会

【副会長】 内容の深いご意見を頂戴し感謝する。平成29年度第4回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・評価委員会を閉会とする。三寒四温の日々が続くため、体調に気を付けて過ごしていただきたい。ありがとうございました。

以上